

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢市鶴沼松が岡サービスピ付き高齢者向け住宅	階数	地上3F
建設地	藤沢市鶴沼松が岡6711番21	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域	平均居住人員	69人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年7月1日
敷地面積	3,608 m ²	作成者	NTTファシリティーズ
建築面積	1,145 m ²	確認日	2015年7月8日
延床面積	2,902 m ²	確認者	NTTファシリティーズ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2 ★★★★★</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超</p> <p>標準計算</p> <p>■建設 ■修繕・更新・解体 □通用 □オンサイト □オフサイト</p> <p>参照値 100% 建築物の取組み 85% 上記+ 以外の 85% 上記+ 85%</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>住まう人それぞれの個性を反映できるカスタマイズ可能な仕組み(外構植栽、菜園)と四季の変化や光と風を身近に感じ、触れることのできる緑豊かな施設計画。さらに地域との日常的な交流スペースを確保し、万が一の時にも地域のよりどころとなる施設づくりを目指している。</p>	<p>その他</p> <p>-</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>建物四周にバルコニーを配し、開口部のガラスはペアガラスとして開口部の日射負荷、熱負荷を低減。エントランス等共用部は間接照明などを活用して照度を抑え、落ち着いた空間とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>躯体壁を最小限として可変性の高い住戸計画とした。またメンテナンス性を考慮し、耐久性の高い部材の選定、種類の限定、メーカーの統一などを行った。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>既存の樹木を残しながら、基準以上の緑地面積を確保し、一部を地域住民にも開放。さらに庇やバルコニーの陰影が作りだす彫りの深いファサードにより風景に馴染み威圧感のない落ち着いた景観形成を図った。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物四周にバルコニーを配し、開口部のガラスはペアガラスとして開口部の日射負荷、熱負荷低減を図った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>資源の消費を抑制することを念頭に置き、節水型機器の利用などにより水資源の無駄をなくした。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>緑地面積を大きくとり日射による地表面の温度上昇を抑えて温暖化対策に寄与した。建物を出来る限り隣地側との距離をとる配置とすることでプライバシー、採光、通風の確保を図った。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される